

【報告様式】

課題名：南薩地域の畑作物生産の安定と営農の再構築

所属名：南薩地域振興局農政普及課

発表者名：橋口 太亮

＜活動事例の要旨＞

- ・関係機関と連携した、生産者等への、「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」の3つのサツマイモ基腐病（以下、基腐病）対策の徹底と周知・普及により、地域での基腐病被害の軽減が図られた。
- ・基腐病軽減対策として、露地野菜との輪作推進によりスマート農業技術導入や可給態窒素分析を利用した施肥改善の取組が進み、露地野菜の生産拡大が図られている。

1 活動の課題・目標と策定過程

（1）課題・目標と設定理由

平成30年に確認された基腐病の被害拡大により、さつまいもの生産量が減少し、生産者及び関連産業の経営に大きな影響を及ぼしている。このため、野菜係と共同の普及指導計画を作成し、重点計画に位置づけ、基腐病軽減技術の確立と関係機関と連携した生産者等への周知・普及により、被害軽減を目指し、収量の回復を目指す。さらに、露地野菜との輪作により基腐病の被害軽減を進める。

（2）計画の策定過程

○課題

- ・基腐病が蔓延し、収量が令和3年では、H28から約40%減少。現場では、基腐病の対策が求められている。



○取組 野菜係との共同で普及指導計画を作成し、重点計画への位置づけ

- ・役割分担の明確化
- ・各市に重点推進地区を設定し、地域の実情に沿った取組を支援
- ・総合的な基腐病対策の実証による波及（作物）
- ・露地野菜との輪作による基腐病軽減効果の検証（野菜）



○目標

- ・基腐病軽減対策技術の確立・普及
- ・基腐病の発生程度の軽減、収量が基腐病発生以前の2.6t/10aまで回復
- ・輪作促進による露地野菜面積拡大

2 普及指導活動の内容

（1）活動の経過

ア 役割の明確化と支援体制の強化

- ・令和4年、3市の実情に合った対策を行うために市毎にワーキンググループを設立。
- ・各市のワーキンググループで上がった課題等を作業部会で検討し、情報を共有。

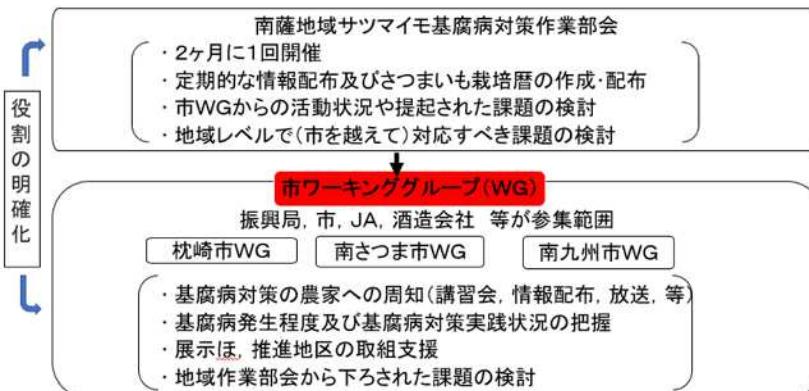
イ 重点地区の設置

- ・各市に重点地区を設置して、各市の実情に沿った取組を実施。

ウ 3ない対策の検証

- ・3つの総合的対策の周知。抵抗性品種「みちしづく」実証による新規登録農薬の防除体系の実証。
- ・「残さない」取組の一環で、野菜の輪作による基腐病被害軽減効果を検証。

（2）指導・支援の体制



3 普及指導活動の成果

(1) 目標の達成状況とその要因

ア 基腐病の発生程度の軽減。

・各市にWGを設置し、各種調査、啓発活動を行う連携体制を整え、実証ほを活用した研修会や広報活動等による基腐病対策の周知を図ったことで、管内の基腐病被害程度中（ほ場の2割以上発生）以上のは場割合が、令和元年の20%から、令和6年には0%に軽減された。

表 南薩地域 さつまいも基腐病発生(市報告)

年度	作付面積 (見込み)	微	少	中	多	甚	合計
		1株～ 3%未満	3～ 20%未満	20～ 40%未満	40～ 60%未満	60%以上	
令和6年	3,142ha	480ha 15.3%	69ha 2.2%				549ha 17.5%
令和5年	3,142ha	538ha 17.1%	121ha 3.8%	22ha 0.7%			680ha 21.7%
令和4年	3,068ha	1,529ha 49.8%	117ha 3.8%	24.9ha 0.8%			1,671ha 54.5%
令和3年	2,933ha	1,170ha 39.9%	1,127ha 2.2%	326ha 11.1ha	128ha 4.4%		2,752ha 93.8%



イ 輪作促進による露地野菜面積拡大

・輪作体系に組み込まれる露地野菜の栽培面積が増加した（主要露地野菜面積 H28 1,167ha, R6 1,248ha）。また、生産工程管理システムが9戸、自動操舵装置が5戸で導入され、生産の効率化が進んだ。さらに可給態窒素分析を依頼する農家が増加し、施肥改善へ活用が進んだ（農家数 R4：3戸、R5：38戸、R6：23戸 ※11月時点）

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

・さつまいもの単収は持ち直しつつあり取組成果は出ているが、生産コストや労働時間の増加、他の病害発生など課題は多いため、残された課題解決とさらなる単収向上の取組をお願いしたい。

(3) 地域農業振興への貢献

さつまいもの単収は、基腐病発生以前の平成28年は2,629kg/10aだったが、基腐病被害により令和3年は1,624kg/10aまで減少した。しかし、対策技術が地域内である程度浸透した結果、令和6年は2,378kg/10aにまで回復した。また、さつまいも後作の利用体系拡大により、生産者の経営規模拡大が進み、特に露地野菜の生産拡大と農地の高度利用が図られた。

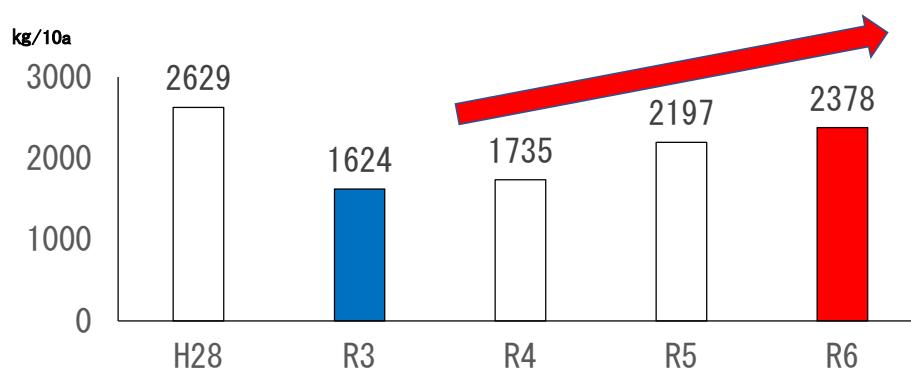


図 南薩地域 さつまいも10a当たり収量(市報告)

4 今後の普及指導活動に向けて

基腐病対策と焼酎用原料の確保対策として、早植え、早掘りの傾向が強まっている。また、単収は基腐病発生以前の平成28年のレベルまで回復していないため、でん粉原料用を中心に、用途別には十分確保できない厳しい状況が続いている。また、新たな病害や害虫問題も発生しており、基腐病対策も含めた、さつまいも生産振興のための対策は継続して必要だと思われる。これらの課題解決に向け、関係機関と連携して、今後の畑作営農を担う生産者の支援を行い、さつまいも生産安定を図りたい。